

キリバス珊瑚島における在来の生業的植物利用と換金作物栽培の併存

1. 地域の概要

中部太平洋に位置する小島嶼国家、キリバス共和国(人口は約10万人、2004年のセンサス)の南部タビテウエア環礁は、太平洋の寡雨地帯に位置している。年により降雨量が不安定であり、しばしば旱魃に見舞われる。また、陸地面積が著しく狭く、海拔も低い(最高地点でさえ海拔2-4m程度しかない)。サンゴ性の石灰質土壌で有機物の堆積が未発達で植物相が貧弱である。陸生動植物の生存に加え、人間が居住するうえでも極めて厳しい自然条件であるといえる。



図 キリバス共和国

2. 過酷な自然環境に適応した資源利用

不安定な降雨量、貧弱なサンゴ性石灰土壌、相対的に狭小な土地面積といった特異な自然条件のなかで、生きてゆくために、人びとは次のような特徴的な資源利用を行っている。

(1) 屋敷林とブッシュにおける資源利用

集落の屋敷林には、ココヤシ、パンノキ、パパイヤなどが植えられている。この地域では、野菜を栽培することが困難なため、人びとは葉野菜の代用として集落に生育するウドノキ(*Pisonia grandis*)やハイビスカスの一種(*Hibiscus manihot*)の葉を利用している。

集落を取り囲むブッシュ(buakonikai; 集落外の非居住地の総称)では、パングダヌス(*Pandanus tectorius*)やハテルマギリ(*Guettarda speciosa*)などの灌木が生育している。パングダヌスは、果実が生食されたり、調理され食料として利用されたりするほか、保存食に加工されている。また、葉は、屋根葺材、ゴザ、ミズズイキ栽培用縄(後述)、肥料など、気根は治療薬、幹は建材として多目的に利用されている。ハテルマギリの幹は、屋根の骨組材、食器棚などの家具材、屋敷地の柵や農作物の支柱に、葉は、保存食を作る際の下敷きや地炉の上の覆いとして用いられている。

(2) ピット耕法によるミズズイキ栽培

南部タビテウエア環礁では、その特異な自然環境によって、太平洋島嶼部で主食として利用されているパンノキ、サトイモ、ヤムイモの生育が芳しくない。そのため住民は、耐塩性があり、収穫しないでも土中に長期間イモを保存することができるミズズイキ(*Cyrtosperma chamissonis*)をピット耕法(pit cultivation)により栽培してきた。ミズズイキは、地下水が滲出するまで地面に穴を掘って、人工的に沼状にした堀削田に植えられ

る。この田では、底土に灌木の葉を十分に混ぜ込んである。植えたミズズイキの茎の周りに、パンダヌスの葉を束ねて作った縄をぐるぐると巻き、鉢状にし、その中に泥や落ち葉や腐った木の幹などを入れて肥料にする（写真1）。

商品経済が浸透するなか、人びとはコメやコムギなどの輸入食物に依存するようになってきている。それに伴い、ミズズイキの日常的な食生活における重要性は低下しているが、村の様々な集まりの場で共食されたり、贈答されたりするなど、現在でも高い社会的・文化的重要性を持っている。そのため、人びとはミズズイキの堀削田を維持している。



写真 ミズズイキの堀削田

出所：風間[2002]

(2) ココヤシの商業的・非商業的利用

ココヤシは南部タビテウエア環礁住民にとっての唯一の換金作物である。ココヤシは西洋人との接触が始まったころから増え始め、19世紀中ごろから、地元住民は、ココヤシ油やコプラ（ココナツの胚乳を乾燥させたもの）を西洋人や中国人トレーダーに販売していた。市場経済に包摂され、現金が必要になったことに加え、サンゴ島の自然条件にうまく適合したため、ココヤシ林は拡大してきている。

3. 不徹底なモノカルチャー

ココヤシ林の拡大が進んでいるが、そうした土地利用変化は、貧弱な植物相のなかで様々な種を利活用し、パンダヌスのような有用植物は多目的に徹底的に利用する、といったこの地域の在来の植物利用システムと相いれないものではない。人びとは、ココヤシ林を極めて粗放に管理している。島には、植栽後に放置されたココヤシ林が各所に存在している。また、ココヤシの植栽密度が極度に低く、灌木が繁茂する土地も多い。このようなモノカルチャーの不徹底が、土地面積の限定されたサンゴ島において、在来の生業的植物利用と換金作物栽培の併存を可能にし、多様な植物種を含む生態系の維持に寄与している。

参考文献

- 風間計博. 2002. 「珊瑚島住民によるスワンプタロ栽培への執着—キリバス南部環礁における堀削田の放棄と維持」『エコソフィア』10:101-120.
- 風間計博. 2006. 「環礁生態系における植物利用システムの再編成—サンゴ島の生業経済と換金作物栽培」印東道子編『環境と資源利用の人類学—西太平洋諸島の生活と文化』明石書店、pp. 61-83.